

平成29年度九州ブロックにおける災害廃棄物処理計画モデル事業に係る基礎的調査検討業務 (鹿児島県)

モデル事業の目的

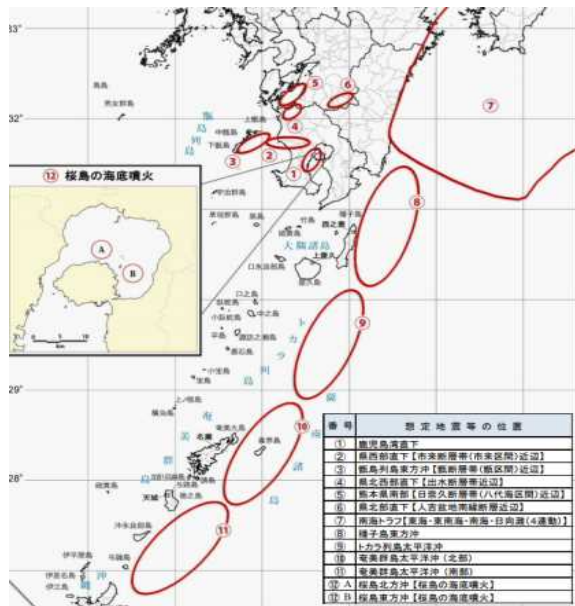
本業務では、鹿児島県が策定する災害廃棄物処理計画に必要な基礎的情報を解析・整理するとともに、計画策定に関する鹿児島県の地域特性や課題などを整理することを目的として実施した。

モデル事業の対象

発生量の推計
災害廃棄物処理計画の策定に必要な項目や対応策

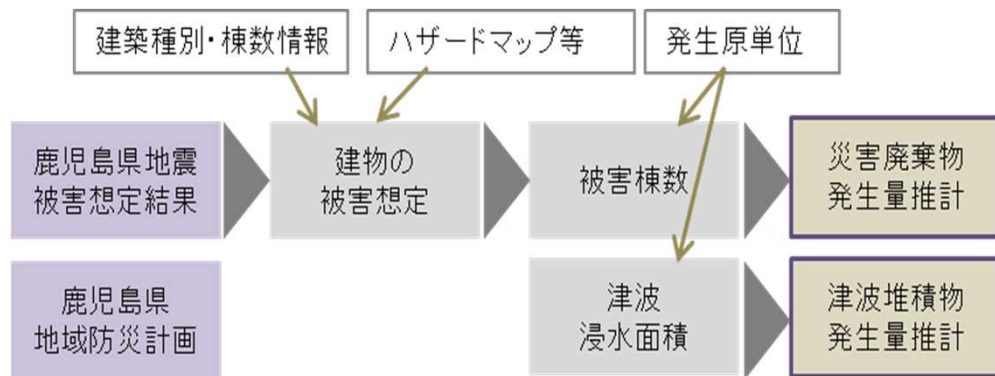
災害廃棄物発生量の推計

「鹿児島県地域防災計画」で想定されている12の地震を対象とし、災害廃棄物発生量の推計を行った。



鹿児島県における想定地震の位置図

災害廃棄物発生量推計のフロー



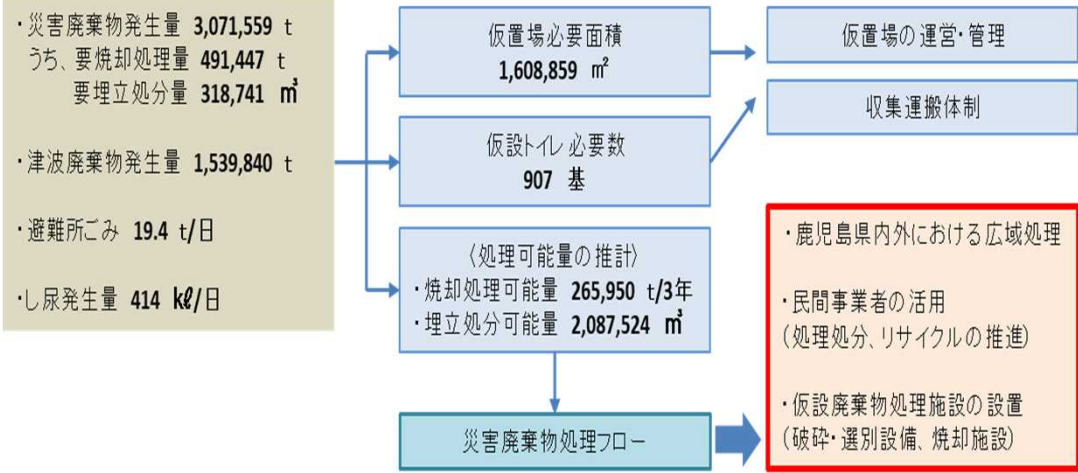
災害廃棄物発生量の推計結果

想定災害	合計	単位：t				
		可燃物	不燃物	コンクリートがら	金属くず	柱角材
鹿児島湾直下	2,82,739	394,044	492,977	1,225,365	152,199	118,154
県西部直下	2,336,848	338,105	489,312	1,193,546	149,508	116,377
鹿児島列島東方沖	301,196	54,215	54,215	156,622	19,880	16,264
県北西部直下	652,627	112,444	127,926	336,189	42,344	33,724
熊本県南部	250,191	44,878	45,390	129,971	16,490	13,462
県北部直下	28,927	5,207	5,207	15,041	1,910	1,562
南海トラフ(西側、津波Case11)	3,071,559	551,751	555,237	1,596,489	202,558	165,524
種子島東方沖	3,156,956	560,100	585,126	1,636,538	207,178	168,014
トカラ列島太平洋沖	149,689	26,943	26,943	77,840	9,877	8,086
奄美群島太平洋沖(北部)	677,764	112,955	142,270	345,251	43,418	33,870
奄美群島太平洋沖(南部)	214,105	36,919	41,136	111,080	13,896	11,074
桜島北方沖(桜島の海底噴火)	38,319	6,897	6,897	19,925	2,529	2,071
桜島東方沖(桜島の海底噴火)	51,433	9,257	9,257	26,746	3,395	2,778

災害廃棄物処理計画の策定に必要な項目や対応策

鹿児島県で想定されている地震のうち、今後30年以内に発生確率80%程度以上と予測され、甚大な被害が予想される南海トラフ地震において、県全体の災害廃棄物の要処理・処分量や処理・処分可能量、仮置場必要面積等、災害廃棄物処理計画策定に必要な項目について、最大量の推計、検討を行った。

なお、本モデル事業では、想定されている地震の種類別、市町村別にも推計を行った。

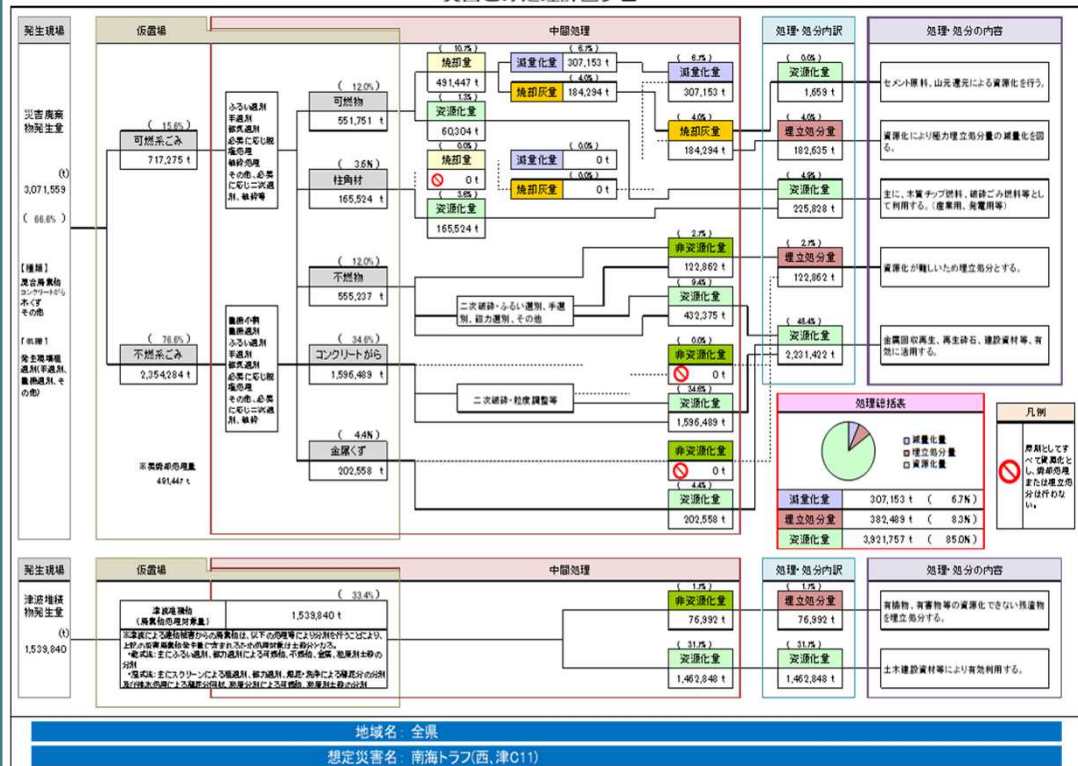


災害廃棄物処理計画に必要な項目と推計値の例

次に、南海トラフ地震を想定した場合の鹿児島県全体の災害廃棄物処理フローの例を示す。

鹿児島県は、災害廃棄物処理について高いリサイクル率を目標に掲げており、県が調整役となって県内外における広域連携、民間事業者の活用の推進がポイントとなる。

災害ごみ処理計画フロー



災害廃棄物処理フロー

モデル事業の効果

鹿児島県では、本業務の結果を活用し、平成29年度中に災害廃棄物処理計画の策定を行った。災害によっては、県全体における処理余力の不足も予測されることから、その補完の検討が必要なこと、仮置場の運営における災害廃棄物の搬入出のバランスによって、仮置場必要面積も変動すること等、実効的な計画策定に向けた検討課題も抽出した。

本業務の成果や県の計画を県内自治体とも情報共有することにより、鹿児島県内の災害廃棄物処理計画策定率の向上と発災時の対応力強化に繋がることが期待される。